

性の第一



コンパクト・ブックス



第一の性

一九六四年十二月二十五日初版印刷
一九六四年十二月三十日初版発行

定価二〇〇円

著者 三島由紀夫

発行者 陶山 巖

発行所 株式会社 集英社

東京都千代田区神田一ツ橋二ノ三

電話 東京(262)三三〇一

振替 東京一五六五三

印刷所 大日本印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取替いたします。

©1964

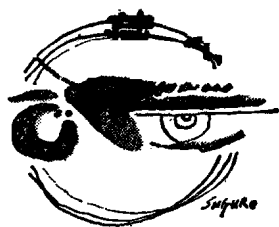
性の第一



コンパクト・ボックス

性の第一

三島由紀夫



コンパクト・ボックス

集英社

此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertor.com

目次

総論……………7

男はみな英雄 8 男の男らしさ 16 男の清

潔さ 22 男のデリカシイ 29 男は愛され

型 36 男のセンチメンタリズム 43 男には

変り者が多い 50 男は買物ざらい 58 男の

色気とは？ 65 男の悟り 72 男は機械いじ

りが好き 79 男はいかに年をとるか？ 86

男にしかわからぬもの 92

各論……………99

エジンバラ公 101

金田正一 107

大石内蔵之

助	113	エルヴィス・プレスリー	堀江
謙一	125	フィデル・カストロ	園井啓
介	138	ネール首相	大松博文
ン・ドロン	157	親鸞	アラ
		三島由紀夫	169

挿画 横山泰三

總

論

男はみな英雄



大体、結婚後二、三年の女性たちが集まると、「男というものは、バカで、単純で、お人よしで、要するに子供である」という結論に落ちつくようであります。

それから、結婚後十数年の女性たちが集まると、口にこそ言わね、「男というものは、多かれ少なかれ、悪党で、ウソつきで、油断がならず、要するに謎である」という結論が出るようであります。

最後に、金婚式にまで辿りついた奥さん方が集まると、表現は大分穏当になっているが、又はじめの結論に戻って、

「男というものは、バカで、単純で、お人よしで、要するに子供である」というところに落ちつくようであります。

大部分の女性は、終生結婚生活という神聖なる研究室にとじこもって、哀れな一匹の雄を精密に周到に研究しているわけでありますから、これらの結論は、十分に科学的であるということができます。

しかしこの三種類の結論を吟味してみますと、第一と第三は辞句は同じであっても、実はちがう内容を持っていることがわかる。第三のそれは、第二のそれを通してはじめて到達されたものであり、はじめはかなり浅薄に皮膚的観察で「男はバカで単純で子供だ」と感じたものが、最後には女性の全身的表现として、全くそうとしか認めようのないギリギリの認容の形で、「男はバカで単純で子供だ」と言っているわけです。

これは女性の生涯をかけた認識の過程ですが、われわれ男から見れば、
「チェッ、わかってないな」

と言うほかはない。こんな風に片づけられては、男は全く立つ瀬がありません。

男はとにかくむしように偉いのです。

バイロン卿がギリシアの独立戦争を支援に行くとき、（その結果、卿は戦病死してしまふのですが）往きの船の中で、永年仕えてきた忠実な執事が、

「まったく殿様のお気持もわかりませんなあ。本国にいれば、何不自由ないお暮らしで、

名誉もお金もたっぷりあり、女たちにも世間にもちやはやされ、面白いことこの上なしなのに、何を好んで田舎の戦争へ辛い思いをしに行かれるのか」

と言うと、卿は一言、

「英雄の心事は下僕にはわからぬ」

と答えたそうですが、今は民主主義の世の中で、どこの家へ行っても執事なんかいませんから、バイロン卿のこの言葉は、

「英雄の心事は女房にはわからぬ」

と言いかえてもよいでしょう。というのは、英雄の日常生活を近視眼的に眺めている人、という意味であって、別に女房イコール下僕と言っているわけではありませんから、念のため。

男は一人のこらず英雄であります。私は男の一人として断言します。ただ世間の男のまちがつてゐる点は、自分の英雄ぶりを女たちにみとめさせようとすることです。

この間美貌のファッション・モデルが、車ごとお濠に落ちて車の屋根へよじのぼり、
「助けてェ！ 私、泳げないのよ！」

と水深一メートル五〇ばかりのところでは叫んだので、たちまち三人の英雄があらわれ、

我勝ちに水に飛び込んで、彼女を救い出したそうですが、こういう騎士道精神は、十五世紀の中世末期のヨーロッパから、廿世紀の日本へまで、よくもみごとに伝播されたものだ、とおどろくのほかはありません。この三人の男たちはみんな高潔であることは疑いようがなく、へんな下心でやったことではなく、況んやお金がほしくてやったことではなく、ひたすら自分が騎士道的英雄であることを証明するためにやったのであります。

騎士道精神とは、いかにも西洋人らしい狡賢ずるがしい発明であつた。それは、女性にもわかりやすい英雄像というものを確立した。本当は英雄というのは、女性にとって一等難解な思想の筈ですが、騎士道はそれを女性向きに、テレビ・ドラマ風に、うまくアレンジしたものである。

日本ではこれが巧く行かなかつた。光源氏はいかなる見地から見ても英雄ではなく、近松の心中物の男たちは本当のヘナチコです。女にかかずらう英雄像は一つもなく、英雄というものは、古くは女性の犠牲によって大業をなしとげる日本武尊やまとたけるのみことから、女といえど商売女の膝枕しか知らない幕末の志士にいたるまで、女性にとっては難解な人物ばかりです。

女が英雄をグニャグニャにしてしまう例は、今でもボクサーの世界でよく見られます



伝播された騎士道精神

が、或るボクサーが私に、

「ああいうのはチャンピオンになってから女を知ったのがまずかったんですよ。それで三人も女ができて、もみくちゃにされちゃったんですね。そこへ行くと僕なんか、十五歳から女を知ってますから、その点は安心でしたね」

と言っていました、これは女性を尊敬する言葉とは思えません。

身も蓋もないことを言えば、女性的原理がわれわれにとって永遠に不可解であるごとく、男性的原理は女にとって永遠に謎なのです。そして、男性的原理の象徴である英雄なるものを理解するには、女には女のやり方しかないわけで、毛糸の人形の一カ所から、綻

をみつけて毛糸を引っ張るように、

「ニコッと笑った顔が可愛いわよ」

などという観点からだけ英雄を眺め、その観点から毛糸をズルズル引っ張り出して、ついには毛糸の人形をバラバラにしてしまつて、ただのこんがらかつた毛糸の玉にしてしまふのです。

男というものは、可哀想に、子供のときから嵐の中で育つて行きます。嘲笑と悪罵と批評にさらされて、何とか人の笑ひ者になるまいとして心身をすりへらしています。男の子の世界では、第二次性徴の発達如何でも尊敬される度合いがちがってくる。

「何くそ！ 何くそ！」

これが男の子の世界の最高原理であり、英雄たるべき試煉です。こんな競争心のもつとも幼稚な部分が、大人になつてもありありと残つていて、大体、胸毛なんてものは、女によつても好ききらいがあつて、胸毛なんかにタワシほどの価値もみとめない女性も沢山ある筈だが、まず大ていの胸毛のない男は、胸毛のある男を内心羨ましがっている。これはもう女にもてるとかもてないとかの問題ではなく、男の子の世界の第二次性徴の熾烈な競争の名残であり、英雄類型の幻の名残なのです。

胸毛ひとつをとってみても、男の世界の英雄的闘争の無意味さが、やはり女にはばからしく映るのでしょう。オッパイの大小の競争などもこれに類するものだが、女性は自分のことは棚に上げて、

「男というものは、バカで、単純で、お人よしで、要するに子供である」と結論する。

しかし、一寸待って下さい。女のオッパイの競争は肉体の領域だけの問題だが、男の愚劣な英雄ごっこは、ただちに肉体の領域を通り抜けて、精神の世界にまでひろがってゆき、根本的動機は実に幼稚なのだが、ひろがりゆく先は、世界の政治・経済や、思想や芸術すべての英雄ごっこ、あらゆる大哲学や大征服事業や大芸術を生み出した英雄ごっこへと到達するのです。つまり男の足は、女よりもずっと容易に、地につかなくなりうるのです。「足が地につかない」ことこそ、男性の特権であり、すべての光栄のもとであります。